

歩行者の視界に入りやすい住宅の基礎部は、
外壁とあわせての塗装がおすすめ。



特に道沿いや坂道に立地している“塀・柵がない住宅”は、基礎部が歩行者の視界に入りやすいことが多いもの。せっかく外壁を塗装したのに、基礎部だけが汚れていると住宅全体の美観の印象が悪くなりかねません。だからこそ、外壁の塗り替えの際に、あわせて基礎部を綺麗に塗り替えることをおすすめします。



【標準施工仕様】

工程	製品名	荷姿	調合比	希釈	塗布量	塗回数	施工間隔(25℃)			塗装法
							工程内	工程間	最終養生	
上塗 1回目※1	ベースガード 粉体	16kg	4	0.8~1.2ℓ※2 (清水)	0.30~0.50 kg/m ²	1	—	1時間以上	—	ウールローラー/ ハケ/コテ
	ベースガード 混和液	12kg	3				—	—	—	
上塗 2回目	ベースガード 粉体	16kg	4	0.8~1.2ℓ (清水)	0.70~1.0 kg/m ²	1	—	—	16時間以上	多孔質ローラー/ コテ
	ベースガード 混和液	12kg	3				—	—	—	

※ 可使時間は1時間以内(20℃)です。 ※1 夏場はドライアウトを防ぐため、塗装面に軽く水打ちをすることをおすすめします。 ※2 材料が固い場合は最大2ℓまで希釈可能です。

【下地調整】

- ・(必要に応じ)基礎巾木周りの地面を掘り下げて、基礎立ち上り面を全て露出させ、付着した土を完全に取除き、乾燥した清浄な面とする。
- ・ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分等の付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエス等で除去し、乾燥した清浄な面とする。
- ・セメント系下地調整塗材を用い、素地の巣穴・段差に注意しながら、全面しこき塗りし、平滑な面とする。
- ・クラックがある場合は、シーリング材(ノンブリードタイプ)にて補修し、養生後、補修部のみエポキシ系シーラーを塗布する。
- ・劣化し脆弱な部分等は、ディスクサンダー、スクレーパー等により除去する。
- ・漏水箇所は予め水が浸入しないように処置し、汚れ、付着物、油脂類等を高圧洗浄、スクレーパーやシンナー等で除去する。
- ・塗装する下地は、清浄かつ、十分に乾燥させる。

【施工上の注意】

- ・撥水剤が塗布されている場合は、施工不可となります。
- ・希釈する場合、薄めすぎるときれいに仕上がらないことがありますので、希釈量を厳守してください。
- ・可使時間が短いため、特に夏場は小分けしながら調合し施工してください。
※ 可使時間は1時間以内(20℃)です。
- ・コンクリート製の犬走りの場合、最下部より1cm程度あけて施工してください。
- ・雨・強風・結露等の悪天候及びこれらが予想される場合には施工は避けてください。
- ・5℃以下、湿度85%以上の施工は避けてください。
- ・使用する前に塗料を十分に攪拌してください。
- ・上記塗布量及び塗回数は下地の材質・状態等で増える場合があります。
- ・ウールローラー施工の場合、上塗りの塗回数が増えることがありますのでご注意ください。

【対応素材】

基礎巾木

【試験結果】

■ JIS A 6909 建築用仕上塗材
『低温安定性』『軟度変化B法』『初期乾燥によるひび割れ抵抗性』『付着強さ』『温冷繰返し』『透水性B法』『耐衝撃性』『可とう性』『伸び』『伸び時の劣化』 全て合格

【製品データ】

荷姿	28kgセット(粉体:16kg、混和液:12kg)
塗布量	0.30~0.50kg/m ² (1回目) 0.70~1.0kg/m ² (2回目)
希釈	0.8~1.2ℓ(清水)
艶	艶消
色	グレー(N-82近似色)、グレー2(N-65近似色)
可使時間	1時間以内(20℃)



製造・販売元 株式会社アステックペイント

福岡本社 / 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3-14-1 9F
福岡事業本部 / 〒811-2233 福岡県糟屋郡志免町別府北4-2-8
東京営業所 / 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-6-1 10F
大阪営業所 / 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-5-3 B1
沖縄営業所 / 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜1-1-6 B1

astecpaints.jp

- 製品については下記までお問合せください。



ver.202209

ベースガードは、
建物の基礎部専用の塗料。
優れた保護機能で基礎部の
耐久性を向上させます。

BASE GUARD

ベースガード

水性ポリマーセメント形
一液一粉基礎巾木用上塗材



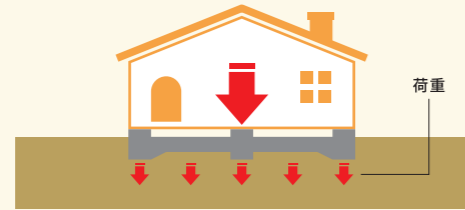
ベースガードは、建物の基礎部専用の塗料。
優れた保護機能で基礎部の耐久性を向上させます。

BASE GUARD



基礎部の役割

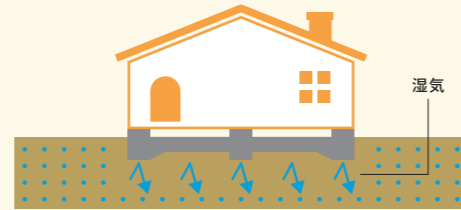
1 建物全体の荷重を支える



基礎部は建物の荷重を均等に地盤に伝える要の部分。
基礎部が高い強度を保持することによって、
建物の沈下や傾きを防ぐことができます。

2 土壌からの湿気の浸入を防ぐ

※ベタ基礎の場合



土壌からの湿気の浸入を抑制するため、
躯体の腐食や建物内部のカビ・菌の繁殖を抑えます。

基礎部の劣化は「荷重を支える力の低下」や「水の浸入」、「菌の繁殖」を引き起こすだけでなく、「白華現象※」などによる美観の低下にも繋がります。

家に長く快適に住むためには、基礎部が劣化しないように保護することが重要です。

※白華現象：コンクリート中の成分が水に溶けて、表面に白い斑点となって現れる現象。

ベースガードなら、メンテナンスが見落とされがちな建物の土台である基礎部を保護して、
建物の劣化要因である雨水の浸入を抑制します。

基礎部を守るベースガードの3つの保護性能

『中性化』を抑制し、『ひび割れ』が発生しても表面化させない。
劣化の連鎖を防ぐベースガードが建物の基礎部を保護します。

中性化抑止 ▶ コンクリートの表面を防水性のある塗膜で保護する

コンクリートの表面が
中性化の要因である二酸化炭素に
曝されるのを防ぎ、中性化を抑制します。
また、防水性に優れた塗膜が
鉄筋の錆の要因となる水の浸入を抑え、
ひび割れの発生を抑制します。

■中性化抑止のメカニズム



伸縮性 ▶ 高い伸縮性でひび割れから建物内部への雨水の浸入を抑制

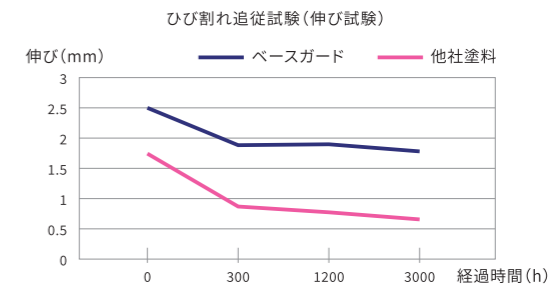
弾性のあるポリマーセメント系の塗膜のため、コンクリート面にひび割れが入っても、塗膜がひび割れを表面化させません。
これにより、鉄筋の錆の発生や凍害等の劣化の要因となる雨水の浸入を抑制します。

※地震などの大きな振動によるひび割れは表面化する場合があります。



伸縮性のない塗料
表面化したひび割れから
雨水が浸入し、劣化の要因に。

ベースガード
ひび割れを表面化させず、
雨水などの劣化要因の浸入を防ぐ。



人工的に劣化を促進する試験(促進耐候性試験)を行なった後も1.7mm以上の伸びを維持しています。

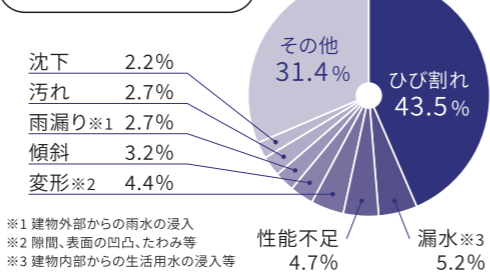


ひび割れ追従試験(ゼロスパンション試験)

実際に基礎部に起こっている劣化の約半数は「ひび割れ」

ひび割れが発生する原因は、「コンクリートの乾燥・気温の変化による収縮」、「建物の傾き」、「地震」、「中性化」。基礎部の「ひび割れ」は放置しておくと変形・雨漏りなどを引き起こし建物全体の劣化に繋がります。

基礎部の劣化の割合

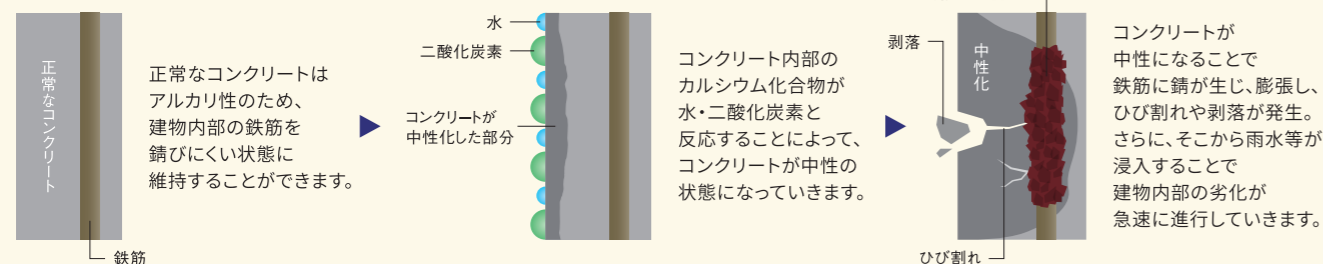


※1 建物外部からの雨水の浸入
※2 隙間、表面の凹凸、たわみ等
※3 建物内部からの生活用水の浸入等
参照：住宅相談統計年報2015資料編
https://www.chord.or.jp/tokei/pdf/soudan_shiryuu_web2015.pdf



放置しておくと危険な基礎部の劣化現象『中性化』

■中性化のメカニズム



コンクリート内部のカルシウム化合物が水・二酸化炭素と反応することによって、コンクリートが中性の状態になっていきます。
コンクリートが中性になることで鉄筋に錆が生じ、膨張し、ひび割れや剥落が発生。さらに、そこから雨水等が浸入することで建物内部の劣化が急速に進行していきます。

高耐候性 ▶ 約10~12年相当の高い耐候性

促進耐候性試験の結果、約10~12年(期待耐用年数)相当の高い耐候性を発揮。
約10~12年相当の耐候性が実証されており、長期間に渡って基礎部を劣化要因から保護します。

※あくまで試験環境下における実測値であり、耐候性を保証するものではありません。実際の自然は露環境下では、下地の状態、施工方法、気象条件等により耐候性は異なる場合があります。

基礎部の劣化を防ぐためには、『中性化の抑制』と『ひび割れの表面化を抑制』するメンテナンスが有効です。